

稀有の事に屬するが故に茲に之を特筆す。

谷水鎮クイシユイヂンは人家二百餘戸、小學堂及巡警局各々一個を見る。此地東端一廟を存し名づけて火神廟ホワシンミヤオと稱す。今日其の祝祭に會し、廟前戯曲を演せり。孝水シヤオシユイは洛水の支流に沿ひ、右岸は斷崖、左岸は緩坡、河幅約十米突あり、沿岸概ね樹木茂り、桃、杏、柿の類多く、且つ其の本道に連る一帶の地は、皆麥を培へり。石尖舖シーシエンブに近づく比、路上黒包の物を運搬するに遇ふ。是れ鹽を運搬するなり、其の車臺頗る奇形、宛然船の如く、騾馬或は牛二頭相輓曳し、載積量二千斤に耐へ名けて貨車と稱ふ。

磁澗鎮ツイチエンチンは人家約三百戸、其の西端に一條の小川を通す、即ち洛水の上支流とす。

呂家寨ロチャサイは多く唐辛及麥を産じ、人家僅々十餘戸に過ぎず。十二里堡に到れば、道路漸く上坡となる、其の下坡に臨むや、左側は絶壁、右側は洛河に沿へり、絶壁は總て岩層より組織せらる。次で洛河を渡れば地勢又上坡となり。未だ幾許ならずして關門の山中に設けらるゝに會す。是れ所謂函谷關フンクイコワンなり。

要するに函谷關は、長距離の大回道中に、一の關門として設けられたるに過ぎず。之を史上に判ずれば、幾棟の館舎葺を連ね、規模頗る壯嚴、少くとも山海關の嚴然四

函谷關